

TOSHIRO HATA PRESENTS

波多利朗の Funky Corner

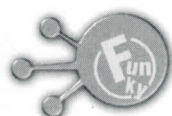
文●波多利朗 text by Hata Toshiro

(URL) <http://www.sky-sea.co.jp/~catty/>

(E-Mail) catty@mxp.mesh.ne.jp

ATARI Portfolio大図鑑

ここまで揃えりゃアンタもマル廃? (地の巻)



チンクのこと (もしくは恒例前フリの脱線コラム)

編集部の方から「若干の脱線だったら許す!」とのありがたい許可を頂いたので、今は亡きPC WAVE誌上でも行っていたように、恒例の冒頭脱線コラムを書かせていただくことにする。筆者は、本文を書いている時よりも、この冒頭の脱線コラムを書いているほうがシアワセという変なライターなので、お許し願いたい。

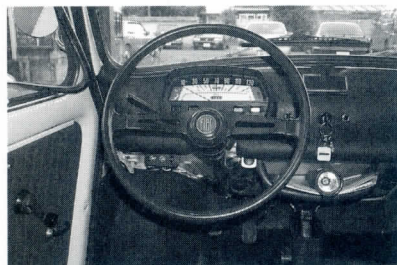
ところで、筆者は1971年に製造されたFIAT 500Lという車に乗っている。この車は、イタリアはFIAT社が1953年～1975年の間に製造した大衆車で23年間に総計400万台以上生産されたと言われているベ

ストセラーである。日本ではFIAT 500と言うよりも「ルパン三世の車」と言ったほうが通りが良いであろう。ちなみに、シトロエン2CVには花嫁が乗るものと相場が決まっているが、こういうマニアックな話題に突き進むと、妙な

ところが濃くなってしまい、歯止めがかからなくなるので、この件についてはこの辺で止めておくことにしよう(何のハナシなのか全然解らない方、スイマセン^^;)。

さてこのFIAT 500であるが、イタリア語で500のことをチンクェチェントと言うことから、日本では「チンク」という愛称で呼ばれることが多い。このチンク、自動車の原点とも言える製品だけあり、構造が非常にシンプルだ。そのダッシュボードは、「なんにも無いけど全て有る」と言われており(001) Lタイプという比較的高機能の車種ですら、メーターと呼べるものはスピードメーターと燃料計しかない。油温計、油圧計、電流計、電圧計、ブースト計等々が所狭しと並び、まるで飛行機のcockpitのような様相を呈している現代日本の乗用車と比較すると、びっくりするほどシンプルだ。しかし、これで十分運転できちゃうのだから驚きだ。日常のメンテナンスでもそれなりに手がかかるし、死んでもエアコンは付かないし、「オートマチック? 何askaそれ?」という車なのであるが、不思議と愛着を生じる。

というわけで、最近この車に文字通りハマりこんでいる訳だが、これって良く考えてみると、超古型謎ば〜機をわざわざ現代で使用する趣味と、一脈通じるものがあるような気がしてならない。アイコンをタップするだけで簡単にWEBサーフができてしまう製品が主流になってきているにもかかわらず、一



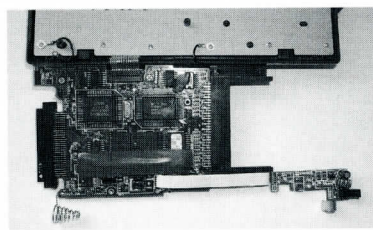
001 FIAT 500のダッシュボード写真

「なんにも無いけど全て有る」と言われたFIAT 500のダッシュボード。大型のスピードメーターしか目に付かないシンプルさである

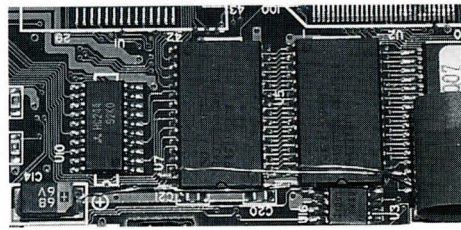
生懸命DOSのドライバを入れてCONFIGをいじくり回しインターネットに接続することに喜びを感じるというのは、通常考えて「常軌を逸した」趣味であると言うことができよう。しかし、あらゆる艱難辛苦を乗り越え、

少ないリソースを最大限利用するというのは、案外気持ちが良いものだ。この、ある面白がるな世界、一旦陥ってしまったら最後、底は見えない……

^O^;;



002 512KバイトRAM拡張基板の表面写真
内蔵メモリを512Kバイトに拡張した基板の表面。意外とコンパクトにまとまっている



003 512KバイトRAM拡張基板のハンダ部分のアップ
SRAM部分の空中配線部分のアップ。ハンダ付けの腕は、あまり上手くない……

ATARI Portfolioを めぐるグッズたち

さて、本題に入ろう。超古型パームトップパソコン、ATARI Portfolioのお話しをしていたのであった。前回はPortfolioというマシンの紹介を行ったが今回はそれを巡る様々なグッズについてご紹介してみようと思う。

このPortfolioというマシン、1989年生まれであるにもかかわらず海外、特にヨーロッパ（東欧）圏での人気が高く、現在でも広く用いられている（そうである）。使っている人が多ければ、いろいろな周辺機器やソフトウェア、グッズ等が続々登場してくるのは世の常であり、このPortfolioにも便利なモノから怪しいモノまで、実に様々な周辺機器とアクセサリに満ちている。今回はそんなグッズの中から面白そうなものをご紹介して行こう。なお、ここで紹介したものは、すべて筆者とMadame Fatale氏がWEBを駆使して海外からオーダーしたものである。購入先は、判明できるものについては記載した。また、購入先がわかっている、既に製造が中止され、在庫も尽きてしまったものも多いと思われる。御購入を検討されている方は、これらの点を予めご承知置き願いたい。

1.512Kバイトメモリ拡張基板

前回もお話したように、ATARI Portfolioの内蔵メモリは標準状態でたったの128Kバイトである。Portfolioでは、ただでさえ少ないこのメモリ空間を、RAMディスクとシステムメモリとで共用するため、

ストレージ領域として利用できるメモリ容量は極めてわずかとなり、大きなサイズのプログラムを格納することができない。

ところが、内蔵メモリを512Kバイトに拡張した基板を、チェコスロバキアはプラハで販売していた。価格は\$283であった。オリジナルのPortfolioでは256K bit SRAMを4個使用しており、総計128Kバイトとなっている。メモリ拡張版は、これを1M bit SRAM4個に置き換えており、総計512Kバイトとなっている（002）。

256K bit SRAMは28 Pinのフラットパッケージであるため、これを32 Pinの1M bit SRAMに変更すると、4本分だけチップの足が宙に浮いてしまう。これらは、あまり上手とは言えない空中配線で接続されている（003）。その他、この基板ではBIOSチップにも手が加えられている。

この基板、チェコはプラハで事務所を営むJan Sedlak氏より購入したのであるが、UPSで送られてきた基板を見て目が点になったのを今でも覚えている。マニュアルが無いのは我慢できるとして、なんと基板本体が剥き出しでボール紙に包まれており、静電気防止袋にも入っていないかったのだ。アチラでは静電気ってもんが無いのかね？ おおらかというか何というか……

【購入先】

チェコスロバキアはプラハに事務所を持つJan Sedlak氏より購入

（但し同商品は現在在庫されていない）

URL：http://www.port-home.com/portfolio/pf_price.htm

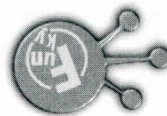
商品番号：HPC011

商品名：Portfolio 512K RAM, reconditioned

価格：\$283

2.メモリカード

（1Mバイトフラッシュメモリ）



この1Mバイトフラッシュメモリカードは、かなりレアなアイテムだ。その理由は外観を見ていただくとわかるが、ナント！手造りなのである。この大量生産時代において、手造りのメモリカードなんてものには、そう滅多にお目にかかれるものじゃない。なかなか味わい深い製品と言えそうだ。製造メーカーはOPTROL INC. (オプトロール社)。カードの容量1MバイトのPortfolio専用フラッシュメモリカードである(004)。

カード裏面を見ると半透明のシート越しに内蔵部品が透けて見えるという奇抜な設計だ(005)。まさに今流行りのスケルトン仕様ってヤツだが、PCカードでスケルトン・デザインをやっちゃったのは、おそらくこれが最初じゃないかな？ 因みに、半透明のシート越しに、intelのフラッシュメモリチップであるE28F008SA (1991年製) が確認できた。

カードの使い方は至って簡単だ。Portfolio本体の電源がOFFの状態でもカードを挿入し、次いで電源をONとする。さらに、CTRL+ALT+DELでリブートをかければ、カードはDドライブとして認識される。本体内蔵メモリが128Kバイトと非常に容量が少ないATARI Portfolioで、手軽に1Mバイトのストレージメモリが手に入るのは魅力であるが、手造りということもあり、このカードは非常に高価であった。

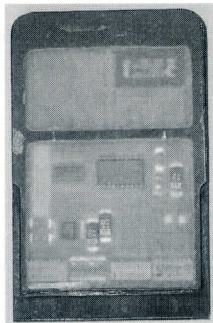
【購入先】

購入時の資料紛失のため不明。価格は、とにかく高かったことしか覚えていないが、だいたい300ドル



004 (左) OPTROL社製1Mバイトフラッシュメモリカード表面写真

OPTROL社製1Mバイトフラッシュメモリカードの表面。この面を見ると、どうってことのないメモリカードなのだが



005 (右) OPTROL社製1Mバイトフラッシュメモリカード裏面写真

OPTROL社製1Mバイトフラッシュメモリカードの裏面。裏側を見てビックリ！半透明シート越しに内蔵が見える！今流行りのスケルトンってか？

前後だったと思う。

3.メモリカード (1MバイトSRAM)

ATARI Portfolio専用のフラッシュメモリがあるのなら、当然SRAMメモリカードも存在する。ここにご紹介する製品は、フランスMICROCARD electronics社製SRAMカード、CARDRAM 1024K BYTES (型番:CCR-1024) である(006)。

おフランス製のカードということで、シャレたデザインを期待された方もおられるかもしれないが、カード裏面は塗装さえされていないアルミ剥き出しの外装となっており、台湾あたりで製造された怪しいPCカードと何ら変わりがない。カード端にはPROTECT-NO PROTECT切り替えスイッチが配置されているが、SRAMカードに必ず付いているバックアップ用ボタン電池のトレイ開口部が見当たらない。というのも、このカードでは、内蔵メモリのバックアップを内蔵のコンデンサに依っているからである。当然、長時間使用しないとコンデンサが放電してしまい、内蔵メモリに保存されているデータはパァとなってしまふ。この辺の設計のユニークさが、いかにもフランス的といえばフランス的だな。ちなみにカード表面には「42220 BURDIGNES-FRANCE」との表記あり。高価であるが手軽に大容量のストレージデバイスを得るには有効なグッズであるといえよう。

【購入先】

チェコスロバキアはプラハに事務所を持つJan Sedlak氏より購入

URL : http://www.port-home.com/portfolio_pf_price.htm



006 MICROCARD社製SRAM 1Mバイトカードの表面写真

おフランス製1MバイトSRAMカードの表面。フランスはMICROCARD electronics社の製品だけど、外観は台湾無印怪しいカードそのもの

商品番号：CRP1M

商品名：RAM karta 1Mバイト MicroCards

France

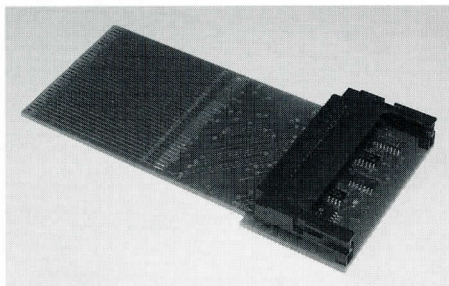
価格：\$311

4.PCMCIA-Adaptor

ATARI Portfolioのメモ리카ードスロットは、前述した通り特殊仕様となっており、現在広く出回っているPCMCIAカードを使用することができない。一見非常に不親切な仕様であるような感じを受けるが、Portfolioが発売された時はまだPCMCIA規格など影も形も無かったことを考えれば、まあ当然といえば当然だ。しかし、PCMCIAカードが一般的となった現在、これじゃあまりにも不便だということで考案されたのが、このPCMCIA-Adaptorである(007)。このアダプタを使用すれば、一般に販売されている容量1MバイトまでのPCMCIA Type-I SRAM Cardを、ストレージデバイスとしてPortfolio上で使用することができるという、怪しくも便利な製品なのである。

使い方は簡単で、PCMCIA Type-I SRAM Cardをアダプタに装着し、次いでアダプタをPortfolioのカードスロットに挿入するだけで良い(008)。後はPortfolioの電源を入れれば、SRAM CardはAドライブとして認識される。余計なドライバソフトを導入する必要がないため、これぞ究極のPlug and Playと言えるであろう。

インストールは極めて簡単なのであるが、このアダプタを用いてフォーマットしたSRAM CardはPortfolio上でしか用いることができないので、他のノートパソコンとデータを共有するような器用な真似はできない。あくまで、Portfolio上で閉じた世界内での使用となる。なおこのアダプタで使用できるカードはPCMCIA Type-I SRAM Cardに限定されており、マニュアルには「間違ってもモデムカードやフラッシュメモ리카ードを使用するなどといった妙な気を起こすな」と書かれている。きつこう書かないと、構わず入れちゃってカードをぶっ壊しちゃったという人



007 PCMCIA-Adaptorのアップ写真

PortfolioにPCMCIA Type-Iカードを接続するためのアダプタ、PCMCIA-Adaptorの外観写真。まるで試作品のよう

が続出するからであろう。

【購入先】

ドイツ、テニンゲンのStefan Kaechele氏のショップより購入

URL：http://home.t-online.de/home/stefan.kaechele/accessor.htm

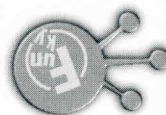
商品名：PCMCIA-adaptor 1

価格：95DM

5.Port-Walk

筆者くらの年齢の廢人は、学生の頃バイトで貯めたお金でPC-8001を購入し、雑誌に掲載されている豆粒のような文字の16進ダンプリストを必死で見ながら機械語のプログラムをポツポツと入力しては、ゲームをやって遊んでいた、という経験を持つ人も多いと思う。当時、FDなんていう気の利いた周辺機器は非常に高価であったため、こうして打ち込んだデータはカセットテープに保存したものである。このPort-Walkは、同じことをPortfolio上で表現するためのデバイスである。

商品パッケージには、Portfolioとカセットテープとを接続するための専用ケーブルと、データバックアップ・リストア用ソフトウェアが格納されたFDが入っている(009)。まず、Portfolio BusにSmart Parallel Interface (Model HPC-101)を装着し、そこへPort-Walkを接続する。次にPort-Walkのミニピンプラグをカセットテープレコーダーのマイク端子もしくはヘッドフォン端子に挿入すればセッティングは終了だ(010)。プログラムのセーブとロードは、添付されてくる専用のソフトウェアで行う。ビニー



008 PortfolioにPCMCIA-Adaptorを接続したところ

PCMCIA-Adaptorの使い方。Portfolioのカードスロットに挿入するだけというお手軽さ。入るからといって、調子に乗ってモデムカードを突き刺しちゃダメ!

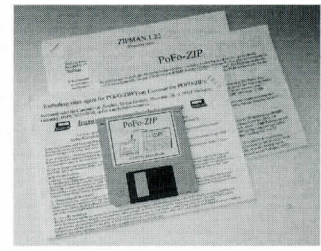




009 Port-Walkのパッケージ一覽写真
Port-Walkのパッケージ一覽。これらがビニール袋に突っ込まれて送られてくるので、怪しさは満点



010 Port-Walkの使用法
Port-Walkの使用例。パラレルインターフェイス経由で接続する



011 PoFo-ZIPの商品パッケージ一覽
怪しい同人誌みたいにビニール袋に入っている

ル袋に入ったパッケージもアヤシイが、専用ケーブルのコールコードも良い味を醸し出しており、なかなかのものだ。しかし何よりも驚くことは、これが現在でも現役で売られている製品であるということだ。

【購入先】

ドイツ、テニンゲンのStefan Kaechele氏のショップより購入

URL : <http://home.t-online.de/home/stefan.kaechele/accessor.htm>

商品名 : PortWalk

価格 : 59DM

6.PoFo-ZIP

PoFo-ZIPは、ATARI PortfolioにIomega社のパラレル・インターフェイス仕様のZIP Driveを接続するためのソフトウェアである。PoFo-ZIPを使用すれば、ノーマル状態でただかか128Kバイトの内蔵メモリしか持たないPortfolioに、32Mバイト×3パーティションという、いったい何に使ったら良いかわからなくて途方に暮れてしまうくらい広大なディスク空間を増設することができるのだ。

PoFo-ZIPの商品パッケージは、ビニール袋にFDとコピーしたマニュアルが入っているだけという、同人誌的装丁である (011)。一応シリアル番号が入っていたのだが、筆者の番号はナント0040番であった。思うに40人目のユーザということか？

インストールは簡単で、PortfolioのCドライブ上に、ドライバソフトであるpofzip.sysとフォーマッタソフトであるzipman.comをコピーしてからCドライブのconfig.sysに、ドライバを登録するだけでよい。後はPortfolio BusにSmart Parallel Interface (Model HPC-101) を介してZIPドライブを接続し、Portfolioの電源を入れりブートするだけでZIPドライブ

が認識される。ZIPドライブを使用する際には、zipman.comという専用のフォーマッタソフトでZIPドライブをフォーマットする必要がある (012)。

なお、1パーティションの最大容量が32Mバイトに制限される理由だが、Portfolioで採用されているDOSのバージョン (DOS2.X) では、FAT12のファイルシステムを使用しているため、32Mバイト以上の領域にアクセスできないためだ。時代を感じさせる制限事項と言えるであろう。

【購入先】

ドイツ、テニンゲンのStefan Kaechele氏のショップより購入

URL : <http://home.t-online.de/home/stefan.kaechele/accessor.htm>

商品名 : ZIP-driver POFZIP

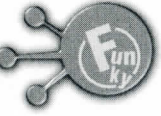
価格 : 25DM

**7.アプリケーションソフト
DOS Utilities File Manager**

ATARI Portfolioは、そのソフトウェアの供給形態も非常にユニークである。ここにご紹介するソフトウェアは、DOS上で動作するファイラソフトだ。パッケージソフトウェアの供給は、通常FD等の媒体で供給されるが、このソフトはPortfolio専用のカードで供給されている (013)。

DOS Utilities File Managerは、ATARI社純正のアプリケーションソフトウェアであり、Portfolio上でファイルのコピー、移動等を行うファイルマネージャ機能と、各種DOSコマンドユーティリティ機能を内蔵している。カード表面には「ATARI Portfolio DOS Utilities」との表記がある。またカード裏面には「ONE TIME Programmable Cared」との記述がある。ワンタイムPROMならぬワンタイムメモリカードという、非常にユニークな製品なのである。このカードにも「Printed in Japan 1989」のクレジットが記載されており、日本製であることがわかる。

購入先はB & C ComputerVisions。Portfolioとい



012 Zip ManでZIPドライブをフォーマットしているところ
PoFo-ZIPに付属してくるフォーマッタソフト [ZipMan] を用いて、ZIPドライブをフォーマットしているところ。1パーティション (32Mバイト) のフォーマットは、極めて短時間で完了する



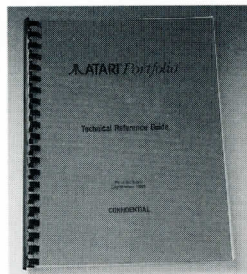
013 DOS Utilities File Managerのパッケージ写真

Portfolioでは、このようにアプリケーションソフトを専用カードで供給することが多い。このソフトは、各種DOSユーティリティを格納したATARI社純正のもの



014 Terminal Plusのパッケージ写真

Portfolio用ターミナルソフトTerminal Plus。このソフトも専用のメモリカードで供給される。それにしては変な格好のカードだな、こりゃ



015 ATARI Portfolio Technical Reference Guide

Portfolioの内部構造について詳細に記述したレファレンスガイドである「ATARI Portfolio Technical Reference Guide」

うマシンのユニークなソフトウェア供給形態を垣間見ることができ、面白い。

【購入先】

B & C ComputerVisionsより購入

URL : <http://www.myatari.com/bcport.txt>

商品番号 : POR001

商品名 : DOS Utilities

価格 : \$29.95

8.ターミナルソフトウェア

Communication Software for ATARI PORTFOLIO Terminal Plus

ATARI Portfolioでも通信環境を構築することが可能である。そのためのターミナルソフトウェアが、このTerminal Plusだ。これはモデムを介してネットワークに接続する際に使用するDEC VT100エミュレータソフトウェアである。カナダはAUTOBYTE PRODUCTS INC社の製品で、B & C ComputerVisionsから\$29.95で購入した (014)。このソフトウェアも、上述のファイラーソフトと同様Portfolio専用のカードの形態で供給される。

本製品、使用可能なボーレートは300、1200、2400ボアの3種類。PARITY ON/OFF、DATA BITS 7/8、STOP BITS 1/2の設定が可能だ。

【購入先】

B & C ComputerVisionsより購入

URL : <http://www.myatari.com/bcport.txt>

商品番号 : POR011

商品名 : Terminal Plus

価格 : \$29.95

9.ATARI Portfolio Technical Reference Guide

Portfolioの内部構造について詳細に記述したレファレンスガイドである。発行は1989年9月。Portfolioが発売された年の発行で、第一版だ。内容は、「ハードウェア構成」、「ソフトウェア構成」及び「周辺機能」の3部構成となっている。システムブロック構成図、BIOSのファンクションコール一覧、グラフィック (LCD) の詳細仕様、周辺機能 (Portfolio Serial CommunicationsとSmart Parallel Interface) の詳細等が、事細かに記述されている。Portfolio用のソフトウェアプログラミングには必須資料であり、日本語エディタPEDの作者であるMadame Fatale氏も、このガイドを参照してプログラミングを行ったそう。元祖IBM PC/ATのリファレンスマニュアルも素晴らしいものがあったが、それを彷彿とさせる完成度である (015)。

【購入先】

チェコスロバキアはブラハに事務所を持つJan Sedlak氏より購入

URL : http://www.port-home.com/portfolio/pf_price.htm

商品番号 : HPD202

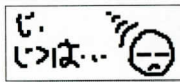
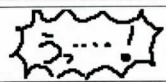
商品名 : Portfolio Technical Guide in English

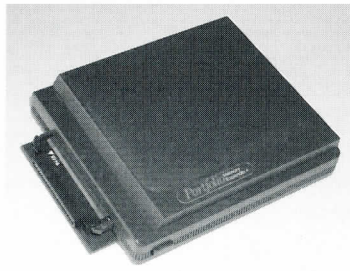
価格 : \$20

10.Memory Expander Plus (HPC-104)

このグッズもかなり個性的なものだ。端的に言うところPortfolio本体の内蔵メモリを拡張するためのユニットである。本製品はATARI社純正で、型番はHPC-104である (016)。

ご存知の通り、Portfolio本体の内蔵メモリは、た





016 Memory Expander Plusユニット本体のアップ

Portfolioの内蔵メモリを手軽に拡張するユニット、Memory Expander Plusの本体



017 Memory Expander Plusのパッケージ写真

Memory Expander Plusのパッケージ内容



018 Portfolio本体に接続したMemory Expander Plus

Portfolio本体に接続したMemory Expander Plus。とてもモバイルパソコンとは思えないくらいの横幅になってしまう。ちなみに1基増設した場合の全体の横幅は31.5cm

かだか128Kバイトである。当然のことだが、内蔵メモリ容量が少ないことに不満を感じるユーザは、かなり多かった。この製品は、ATARI PortfolioのBusに接続することで、内蔵メモリを簡単に拡張することができるというシロモノである。

Memory Expander Plusは、本体、ユーザーズマニュアル、90日間の保証書の3点セットで構成されている(017)。ご多分に漏れず、この製品もMade in Japanだ。ユニット本体には256KバイトのRAMが内蔵されており、Portfolio本体に接続することで、内蔵メモリを128Kバイトから一挙に384Kバイトまで拡張することができる(018)。

さらに、このMemory Expander Plusはカスケード接続が可能なのである！ 本体左側面にはPortfolio Busに接続するためのコネクタが実装されているが、本体右側面にはPortfolio Busコネクタが設けられており、2個のユニットを直列接続できるのだ。2台カスケードに接続する場合には、本体裏面にあるスイッチを切りかえる必要がある(019)。これも非常に簡単で、最初のユニットは「1」に、2台目のユニットは「2」に設定すればよい。

ユニットを2台接続することで、内蔵メモリはMS-DOSのコンベンショナルメモリの上限である640Kバイトまで拡張される。

なお、調子に乗って本ユニットを3台以上接続するという事は、さすがに不可能だ。まあ、2台接続できれば十分なので、それ以上接続したいという要求はよほどギークなお方でない限りあまり無いであろう。映画ブレッドランナーに出てくるスシ・マスターのセリフじゃないが、「2つで十分ですよ！ わかってくださいよ！」ということなのである。

因みにユニット1個の場合、RAM DISKとして設定できる容量はmin 80Kバイト~max 336Kバイトとなっており、2個直列に接続すればmax 592KバイトまでのRAM DISKが設定可能となる。

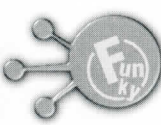
さて、このMemory Expander Plusであるが、本体にATARI Portfolio専用の拡張カードスロットが設けられている。従って、Portfolio本体に接続することで、カードスロットが2基使用できることになる。Portfolio本体のカードドライブはAであるが、増設されたメモリスロットは、Bドライブとして認識される。

拡張カードスロットを増設すれば、プログラムカードとメモリカードを同時に使えたり、メモリカードの内容を他のカードにコピーしたりと、何かと便利である。こう書くと、「それじゃあ、ユニットを2台直列に接続すれば、全部で3基のカードスロットが利用できるのかいな？」と思われる方もいるかもしれないが、残念ながらそうはいかない。1台目のユニットのカードスロットしかアクティブにならないように設計されているのである。

ところで、Memory Expander Plusの内蔵メモリに保存されたデータであるが、Portfolio本体の電源をOFFにした場合、一体どうなるのか気になって眠れない人もいるだろう。この点も良くできており、Portfolio本体からユニットにパワーが供給されているので、Memory Expander Plus本体はバッテリーやACアダプタ不要でメモリの内容を保存することができるのである。しかし、当然ユニットを本体から分離してしまうと、メモリの内容はパァになっちゃうけどね。

さて、Portfolio本体にMemory Expander Plusを接続した場合の大きさはどのくらいかを見てみよう。1基増設した場合、全体の横幅は31.5cmとなり、2基増設した場合の横幅は、実に43cmとなる。ちなみに、Portfolio本体のみの横幅は20cmであるため、2基増設すると本体の2倍以上の横幅となる。こうなってしまうのは、もはや持ち運ぶことはあきらめるしかないな！

このMemory Expander Plusであるが、Busとの



接続部分の強度が弱い為、増設した状態で手荒に持ち運ぶと、ユニットが外れてしまう可能性がある。マニュアルにも「ユニットを接続した時は、あまり持ち運ばない方がよろしい」と書かれている。Portfolioの機動性を取るか、メモリ増強を取るか、ユーザの判断次第といったところであろう。

【購入先】

B & C ComputerVisionsより購入

URL : <http://www.myatari.com/bcport.txt>

商品番号 : ACP011

商品名 : Memory Expansion 256K W/Card

価格 : \$59.95

11. ATARI Portfolioの設計図のコピー

さて、最後にご紹介する極めつけのグッズは、やはりコレであろう。ナント、Portfolioの設計図のコピーである。このような物まで販売されているとは、Portfolio恐るべしといったところだ！内容的にはPortfolioを設計した時に制作した設計図のコピーそのものである。こんなもんで販売しちゃっていいのかな？でも、もう古いマシンだし、設計図そのものはリファレンスマニュアル上でも公開されているから、別に問題ないのかもしれない (020)。

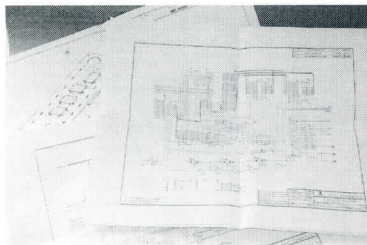
さて、設計図は下記の9枚で構成されている。設計者の欄に日本人の名前が記されているところが、Made in Japanであることを思い出させる。

- SCHEMATIC DIAGRAM LCD PC 0 1/3 - 3/3 (3枚)
LCD基板部分の回路図で3枚構成。1989年9月8日制作のREV.B。設計制作者記入欄には、下記記載があった。

DRAWN BY N.NANBA 3/1/89
CHECKED K.KITAGAWA 3/1/89
ENGINEER K.MARUYAMA 3/8/89

- SCHEMATIC DIAGRAM CPU PC 0 1/3 - 3/3 (3枚)
CPU基板部分の回路図で3枚構成。1989年12月22日制作のREV.B。設計制作者記入欄には、下記記載がある。

DRAWN BY k.m 9/8/89
CHECKED T.TSUCHIYA 9/13/89
ENGINEER K.MARUYAMA 9/14/89



020 Portfolio設計図のコピー

ATARI Portfolio設計図のコピー。こんなもんで販売されているから、Portfolioは奥が深い！

- ASSY SUB LCD PC 0 (1枚)
LCD部分の分解組み立て図で1枚構成。REV.Bで設計者記入欄には下記記述がある。
DRAWN BY E.Kuramachi 4/4/89
CHECKED K.Kitagawa 4/26/89
ENGINEER K.Maruyama 4/26/89

- ASSY MAIN PC 0 (1枚)
Portfolio本体ケース回りの組み立て設計図で1枚構成。REV.Fで89/4/26の記述がある。

- ASSY PCB CPU (1枚)
CPU基板部分の組み立て構造設計図で1枚構成。REV.Gで89/4/4の日付けとなっている。

【購入先】

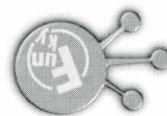
B & C ComputerVisionsより購入

URL : <http://www.myatari.com/bcport.txt>

商品番号 : FSP001

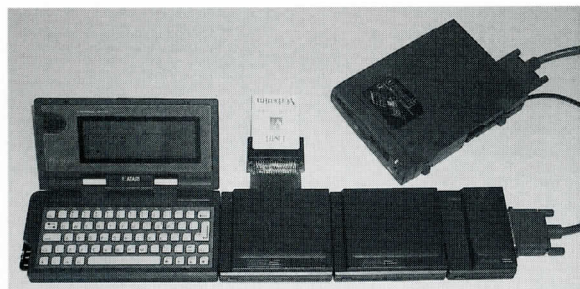
商品名 : Portfolio schematic set

価格 : \$45.00



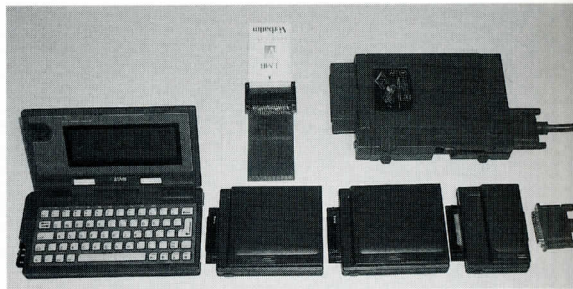
モンスターポート フォリオの構築

さて、ATARI Portfolioの周辺グッズとしてご紹介してきた以上11製品であったが、いかがであっただろうか？現代の一般的なパームトップと比較するとかかなり奇抜なものが多かったのではないだろうか？筆者としては、こういった怪しくも妙に親しみの持てるグッズは大好きである。今回ご紹介した物以外にも、世界中にはまだまだたくさんのPortfolioグッズが販売されている。面白いモノを見かけたら是非ご報告していただきたいものだ。



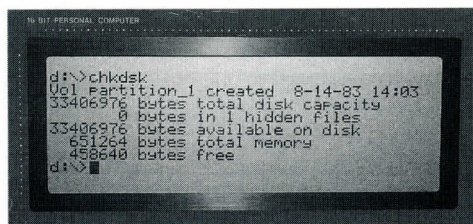
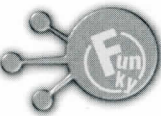
021 モンスターポートフォリオの外観写真#1

モンスターポートフォリオの構築。これらの拡張ユニットを順次接続して、超強力最大最強のPortfolioを構築していく様は、あたかも合体ロボのようである！



022 モンスターポートフォリオの外観写真#2

あらゆる周辺機器を接続して完全武装した、モンスターPortfolioの勇姿！しかし、これでモバイルするにはかなり辛いものがある！というか、不可能である!! なんとって、この状態で横幅は実に50cmにもなってしまうのだ！



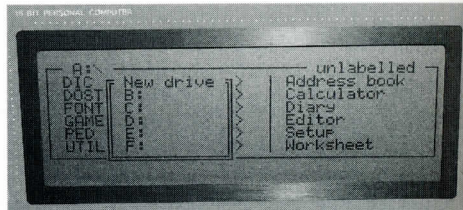
023 システムメモリを640Kバイトに拡張したことを示す写真
Memory Expander Plusを2台接続することにより、システムメモリを640Kバイトに拡張したPortfolioで、chkdskコマンドを実行したところ。ちゃんと「651264 bytes total memory」と表示されている

最後にオマケとして、今回ご紹介したグッズを使用したモンスターPortfolioをお見せしよう。

まず、Portfolio本体にMemory Expander Plus 2個をカスケード接続し、内蔵メモリを640Kバイトに拡張する。Portfolio本体のカードスロットには、フランスMICROCARD electronics社製1MバイトSRAMカードを挿入する。1台目のMemory Expander Plusのカードスロットには、PCMCIA-Adaptorを介して1MバイトのPCMCIA Type-I SRAMカードを装着する。さらに2台目のMemory Expander PlusのPortfolio Busコネクタに、前回ご紹介したパラレル・インターフェースユニット (Model HPC-101) を接続し、その先にパラレルインターフェース接続のZIPドライブを増設する。このZIPドライブは、ドライブソフトであるPoFo-ZIPを使用して認識させる。

以上で、今世紀最大級のパワーを持つ、完全武装した「モンスターPortfolio」が完成する！ (021) (022)。全体の横幅は、実に50cmにも達する！まさに最強最大超強力版Portfolioの誕生だ！

そのスペックはというと、内蔵システムメモリ640Kバイト、AドライブとBドライブには、それぞれ1MバイトのSRAMストレージメモリを実装し、



024 ファイルマネージャでドライブ状況を見る

モンスターポートフォリオのドライブ状況を、ファイルマネージャで確認したところ。写真には写っていないが、A~Fまでの6個のドライブが生成できている

ZIPドライブには32Mバイト×3パーティションのドライブが構築されているといった具合だ。

chkdskでシステムメモリ容量を確認すると、ちゃんと「651264 bytes total memory」と表示されている (023)。また、Portfolioのファイラーソフトを起動させると、A~Fまでの6つのドライブが生成されているのがおわかり頂けると思う (024)。ちなみに、それぞれのドライブは以下のように割り当てられている。

- A : Portfolio本体カードスロットに挿入されたSRAMカード (1Mバイト)
- B : 1台目のMemory Expander Plusカードスロットに挿入されたSRAMカード (1Mバイト)
- C : Portfolio本体内蔵のRAM DISKドライブ
- D : ZIPドライブのパーティション1 (32Mバイト)
- E : ZIPドライブのパーティション2 (32Mバイト)
- F : ZIPドライブのパーティション3 (32Mバイト)

ここまでやれば、後やることと言ったらこの有り余るリソースを何に使うかということだけだが、これは秋の夜長にゆっくりと考えることにしよう。